

<目次>

粉乳情報	欧州産全粉乳、オセアニア産価格に近づく	… 2-3 頁
バター情報	相場に大きな変動見えず	… 3-4 頁
カゼイン情報	カゼイン市場相場は再び軟調局面に	… 4 頁
チーズ情報	中国のチーズ輸入量、過去 7 年間平均で年間約 25%上昇	… 4-5 頁
ホエイ情報	米国産、欧州産ともに若干の相場上昇傾向	… 5-6 頁
乳糖情報	米国産緩やかに上昇中、欧州産は低位安定	… 6-7 頁
国内情報	生乳減産傾向続く 都府県の生産強化が今後の鍵	… 7-8 頁
主要生産国の現行乳価		… 9 頁
オセアニア情報	MG 社買収完了に向け Saputo 社 Koroito 工場を売却	… 9-10 頁
米国情報	生乳生産量及び在庫数量	… 11-12 頁
出典		… 13 頁

## <粉乳情報>

### - 欧州産全粉乳、オセアニア産価格に近づく -

#### - 欧州 -

欧州産脱脂粉乳相場は、引き続き落ち着いている。3月20日に開催されたEU政府介入在庫の放出入札において、4,127トンが落札、応札数量は約10万トンあった模様。最低落札価格は前月を更にEUR50/mt下回り、EUR1,100/mtとなった。毎月最低落札価格は下がっており、次回は更に応札数量が増えると予想されるが、未だに在庫は約36万トンあり、この在庫を放出し尽くすには、時間が掛かると考えられる。欧州産全粉乳相場は、2018年2月までは堅調に推移していたが、オセアニア産と価格差が生まれた事、また一部のメーカーが全粉乳の生産量を増やした事により、ここにきてようやく下落傾向となっている。

#### - オセアニア -

ニュージーランド(NZ)では、雨不足と高温が続き、生乳生産量が落ち込んでおり、2017年12月から2カ月連続で、前年同月比でマイナスとなっている。既に生産ピークシーズンは過ぎており、ここから大きな挽回は難しい状況であり、今後の供給が心配である。2018年1月の粉乳輸出量は前年同月比約9.2%減であった。

一方で、天候に恵まれている豪州では好調な生乳生産が続いている。2017年12月から生乳生産量が2カ月連続で、前年同月比上昇、NZとは対照的な結果となった。なお、最新のgDTの結果は下記の通り。

(2018年3月20日開催、同年3月6日比較)

脱脂粉乳：USD 1,887/mt FAS (船側渡し価格)、-8.6%

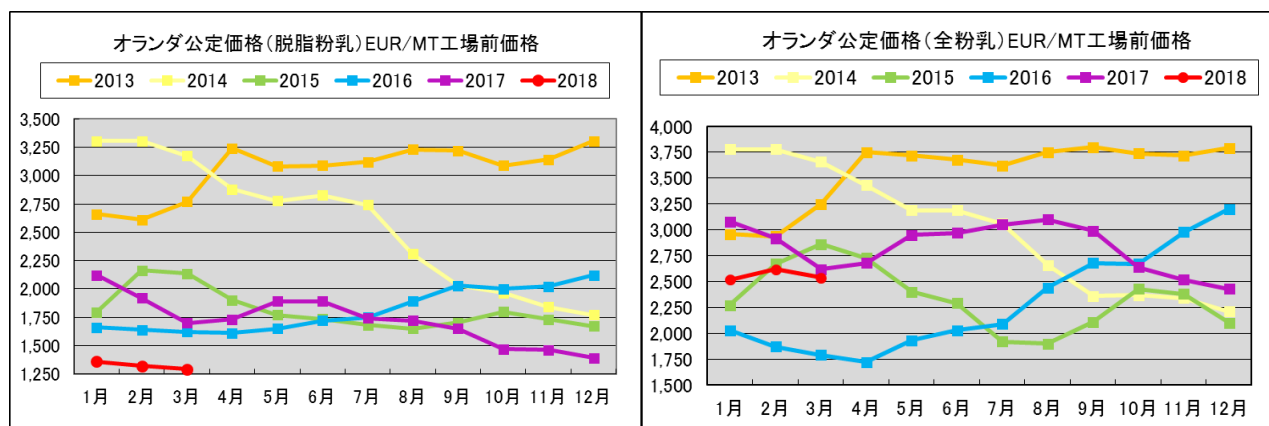
全粉乳：USD 3,226/mt FAS (船側渡し価格)、+0.1%

#### - 米国 -

米国の生乳生産は依然好調で、2018年2月の生乳生産量は前年同月比で1.8%増産となった。生乳生産量の増加要因は、好天に恵まれた事に加え、乳用牛頭数が年々増加している事が挙げられる。例年より比較的暖かい冬だった西部が特に好調だった模様。米国産脱脂粉乳の相場は、徐々に競争力が出てきており、欧州産の価格レベルに近付きつつある。

#### - 今後の展望 -

脱脂粉乳においては、EU政府介入在庫が未だ約36万トンと重い事から、大きな相場反転要因も見当たらず、当面横ばいに推移すると予想する。全粉乳は、NZが乾乳期を迎え、また、世界的に旺盛な乳脂肪需要に引っ張られ、今後強含みに推移する可能性もある。一方で欧州の一部のメーカーは、クリームやバターを製造する事で、脱脂粉乳の更なる在庫積み増しを危惧しており、今後全粉乳の生産量が増える場合は、相場上昇を抑えられる可能性もある。2018年1月の中国の全粉乳を中心とした粉乳輸入量は前年同月比で約31%増加したが、一方で2月は前年同月比11%減少となった。2018年1月は、中国国内の生乳生産量の落ち込みも報告されており、今後も中国の動向を注視する必要がある。



(2018年3月の粉乳取引価格)

EU産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 1,850 – 2,100 /MT CFR ASIAN PORT
EU産全粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,500– 3,800/MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 1,950 – 2,200 /MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産全粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,500 – 3,700 /MT CFR ASIAN PORT
米国産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 1,850 – 2,050 /MT CFR ASIAN PORT

<勝見>

## <バター情報>

### - 相場に大きな動きは見え -

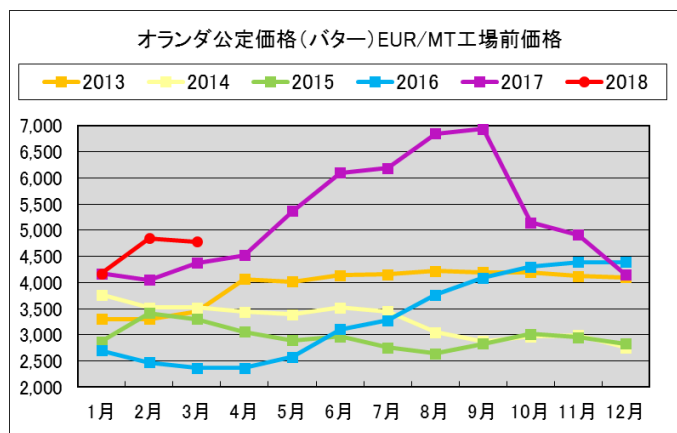
#### - 欧州 -

2月に急上昇した欧州相場は、3月は小康状態を保ったまま依然高値圏に留まっている。

年明けから各国が乳価を下げたことで生乳生産減少が懸念されたが、1月の生乳生産量は前年

同月比+3.4%と状況は悪くない模様。バター生産量も国によって状況は異なるも、全体としては+3.5%と前年を上回って推移した。ただし、欧州の脱脂粉乳介入在庫は未だに約36万トン残っている

ため、今後のバター生産量はブレーキがかかり、相場はしばらく高値安定すると予想する。



#### - オセアニア -

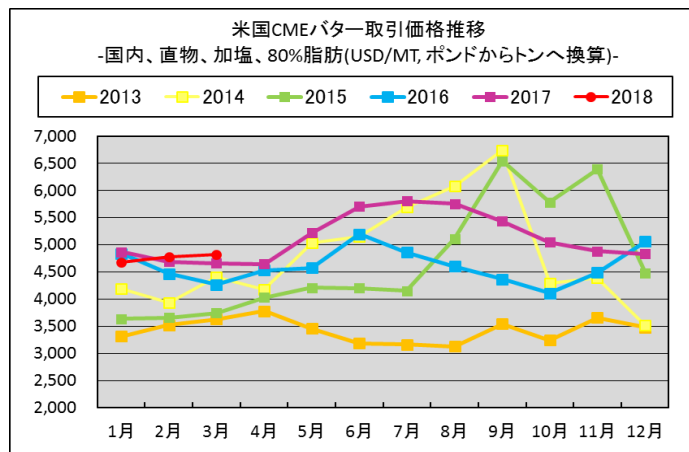
2月のGDTオークションは、AMF、バターともに小幅な値動きとなった。1回目の平均落札価格はAMFがUSD6,245/MT FAS(船側渡し)と前回(2018年2月20日)比-3.3%の下落、バターがUSD5,280/MT FASと前回比-1.0%と微落した。2回目の平均落札価格はAMFがUSD6,249/MT FASで前回比0.1%上昇、バターはUSD5,281/MTで±0.0%といずれも横ばいとなった。

既報の通り豪州においては、生乳生産量は前年同時期を上回っているものの、バター生産量は大きく下回っており、国内の不足分を輸入によって補っている。2018年1月の同国バター+バターオイル輸入量は3,780トンと、前年同月比+21%と大幅に増えている。

#### - 米国 -

2月の米国相場は穏やかに推移した。

2018年1月のバター生産量は前年同月比+4.3%の約8万4千トンとなっている。2月の在庫量は約12万5千トンと前年同月比で+2.6%、2月の在庫量としては1993年以降、最も多い水準となっている。



2018年3月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.24)

EU産バター価格	USD6,900～USD7,400/MT CFR ASIAN PORTS
NZ産バター価格	USD5,500～USD6,000/MT CFR ASIAN PORTS
豪州産バター価格	USD5,500～USD6,000/MT CFR ASIAN PORTS
米国産バター(無塩 82%脂肪)価格	USD5,600～USD6,200/MT CFR ASIAN PORTS

<小瀬村>

## <カゼイン情報>

### － カゼイン市場相場は再び軟調局面に －

カゼイン相場は、年末に底を打ち、一旦上昇に転じたものの、再び軟調基調に戻った。

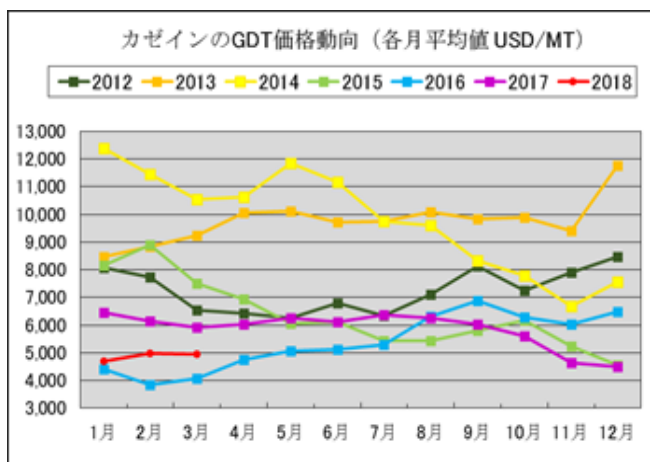
多くの主要ユーザーでは相場の割安感から第2四半期積までの必要量は既に契約しているようで、需要が落ち着きを見せてきたのが要因と思われる。

供給面では欧州において、脱脂粉乳の在庫過多な状態が依然続いており、カゼイン生産は順調な一方で、乾乳期に入るNZでは他の粉乳を優先して製造しており、カゼイン生産は限定的となっている。

今後について、供給面ではNZが乾乳期に入る為、生産量は限定的と思われること、需要面は第3四半期積の以降の引き合いが再開される事からこれ以上の相場低迷は考えにくい。

### － レネットカゼインのGDT 過去3カ月の落札価格 －

入札日	カゼイン(単位:MT)
2018年1月2日	USD4,419
2018年1月16日	USD4,709
2018年2月6日	USD4,943
2018年2月20日	USD4,980
2018年3月6日	USD5,128
2018年3月20日	USD4,948



<渡辺>

## <チーズ情報>

### － 中国のチーズ輸入量、過去7年間平均で年間約25%上昇 －

中国のチーズ需要は年々高まっており、2017年のチーズ輸入量は前年比11.6%増となる約10万8,000トンであった。過去7年間のチーズ輸入量の年間成長率は平均で約25%となっており、昨年の伸び幅は例年程ではなかったものの依然として大きな成長を続けている。現在の一人当たりの乳製品消費量は生乳換算で100g/日となっているが、2016年に中国栄養学会が発表した食生活に関するガイドラインにおいて、バランス良く栄養を摂取できるよう生乳換算で300gの乳製品を毎日摂取する事を推奨しており、今後も中国の乳製品消費量は増え続ける事が予想される。

中国のチーズ輸入量の内、大きなシェアを誇っているのがニュージーランド(輸入量全体の約51%)とオーストラリア(約20%)である。両国とも中国とFTAを締結している事に加えて、距離的にも近い事から歴史的に中国向けの乳製品供給国となっている事が理由であると考えられる。

## - 米国 ピザハットでチーズ使用量 25%増 -

ピザハットは米国内の 6,000 店舗以上でピザ用トッピングチーズの使用量を 25%増やすことを発表した。トッピングチーズを増量して欲しいという消費者のリクエストに応える形となる上、この増加分はおよそ 6 万 8 千トンの生乳需要に相当するため、生乳の過剰供給による乳価下落を防ぐ効果が期待される。

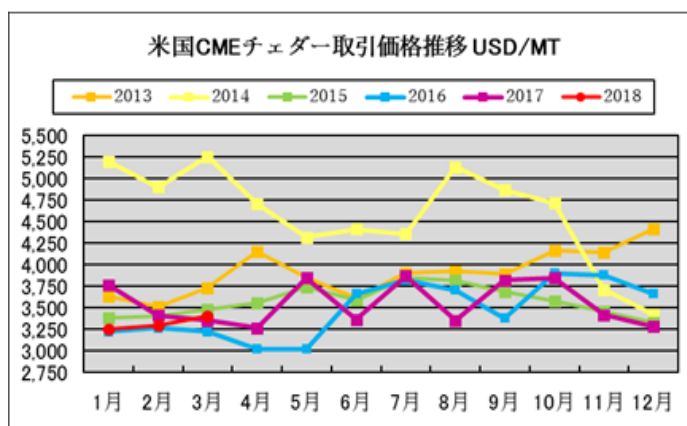
同社は DMI (Dairy Management Inc.) (米国産乳製品の販売と需要増加を扶助する目的で創設された団体) に加盟しているが、同団体主催の乳製品需要増加を目的とする Dairy Checkoff Program の一環で、ファストフードにより多くの乳製品を取り入れる取組みを行っている。同じく KFC、マクドナルド、ドミノ、タコベルも同団体に加盟している。

## - 米国のチーズ在庫量 -

USDA によると 2 月末の米国のチーズ在庫量は前年同月比 7.2% 増の約 59 万 4 千トンであった。その内、チェダーやモントレージャック等のアメリカンタイプのチーズの在庫量は 2.4% 増となっている。年末需要により昨年 12 月から 1 月にかけて在庫量が減少したが、2 月末には前月比 2.8% 増となっている。

## - 米国 CME 相場 -

2018 年 3 月の CME スポット相場は小幅に上昇を続け、3 月 28 日時点で USD3,400/MT まで上昇した。2017 年 3 月と比較して約 USD50/MT の上昇となっている。

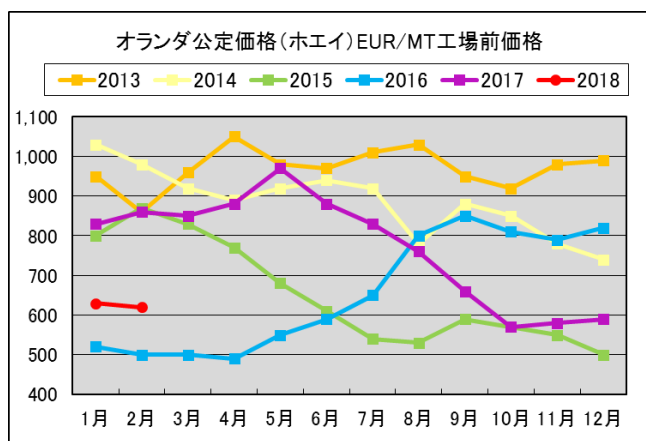


<近藤>

## <ホエイ情報>

### - 米国産、欧州産ともに若干の相場上昇傾向 -

米国産ホエイパウダー相場は、若干の上昇傾向にある。但し在庫が潤沢な状況は変わらず、安値で取引されている脱脂粉乳や濃縮ホエイの影響もあってか、ホエイパウダーの相場上昇は限定的であるという見方が強い。NACC(米国農務省全国農業統計局)によると、2018 年 1 月のホエイパウダー生産量は、前年同月比 9.1% 増、前月比 6.4% 増となる 3 万 9 千トンであった。米国産ホエイパウダーの 2018 年 1 月の輸出量は前年同月比 30% 増の 2 万トンで、国別で見ると、中国向けが約 7,500 トン(前年同月比 26% 増)、続いて日本向けが約 2,000 トン(同比 139% 増)、メキシコ向けが約 1,700 トン(同比 10% 増)、カナダ向けが約 1,270 トン(同比 28% 減)、フィリピン向けが約 1,270 トン(同比 49% 増)トンとなっており、日本向けの増加率が著しい。



欧州産ホエイパウダー相場も若干の上昇傾向にあるものの、高値で推移していた 2017 年前半と比較すると、落ち着いている。EU 域内および域外からの堅調なチーズ需要に支えられホエイパウダー生産も順調な模様。一部、新興国からはより安価な脱脂粉乳の代替用途としても需要が増加している模様。

米国産WPC-34の相場は横ばいで推移。一部育児粉乳用途等の規格の厳しい製品は、高値安定で取引引きされており、契約に基づいた供給が履行出来ないサプライヤーも出てきている模様。一方、一般的規格のWPC-34については、安値で取引されている脱脂粉乳やWPC-80が市場に出回っている影響もあってか、相場が安定していない。このような状況下で、一部サプライヤーには、WPC-34の生産ではコスト割れと判断、WPC-34の生産を中止し、他の製品に生産をシフトしているケースも見受けられる。NASS(米国農務省全農業統計局)によると、2018年1月のWPC(蛋白含有量25~49.9%)の生産量は7,600トン、前月対比8.7%増、前年対比11.2%増。2018年1月末時点でのWPC(蛋白含有量25~49.9%)の在庫量は1万1,400トン、前月対比1.2%増、前年対比15.5%増となっており、直近での急激な相場の上昇はないものと予想する。

<白井>

## <乳糖情報>

### - 米国産緩やかに上昇中、欧州産は低位安定 -

#### - 欧州 -

欧州産乳糖相場は、前月に引き続き低迷している。生乳生産とチーズ生産が好調なことが追い風となり、ホエイと乳糖の生産も順調。前月に引き続き供給面は安定している。また需要面でも前月から大きな動きは見られず、結果、乳糖の相場に大きな変動は見られなかった。

今後の乳糖相場について、供給面では、これから生乳生産量が増える季節となり、乳糖の生産量増が見込まれる。しかし乳価自体は下落傾向にあることから、大幅な生産量増は考えにくい。需要面では、引き続き高い在庫を維持する脱脂粉乳のEU政府介入在庫により、脱脂粉乳の生産も限定的と予想されるため、乳糖需要の増加も考えにくい。よって相場上昇となる特別な要因が見当たらず、相場は大きな変動なく進んでいくものと思われる。

国別乳糖輸入量:2月時点での累計(単位/トン)			
	2017	2018	(%)
オランダ	1,231	1,117	-9
フランス	190	136	-28
ドイツ	1,915	1,788	-7
カナダ	356	568	60
米国	7,278	7,498	3
豪州	0	0	-
ニュージーランド	424	463	9
その他	380	172	-55
合計	11,775	11,742	-0.3

#### - 米国 -

米国産乳糖相場は、緩やかに上昇している。供給面では、生乳生産とチーズの生産が引き続き好調であり、チーズ・ホエイ・乳糖の生産は安定的。2月の生乳生産量は昨年対比1.8%増、1月のチーズ生産量は昨年対比3.4%増、乳糖生産量は1.5%増となっている。一方、需要面では、中国向けなどの育児粉乳用途での引き合いが強まり、特に細かいメッシュサイズの乳糖需要が高まった。加えて、旧正月を終えた東南アジアからの乳糖の引き合いが多く見られ、需要は全体的に高まった。結果、米国内在庫は前月対比で4.4%減と先月同様に在庫が減少し、直近の船積みは売り切れになるメーカーも見られた。一部では、依然在庫が重く安値で販売したメーカーも見られたものの、全体的にはタイトな印象が見受けられた。

今後は、高たんぱくホエイ製品と乳糖の組み合わせの生産よりもホエイパウダーの生産優先が引き続き見込まれるが、好調な生乳とチーズ生産が追い風となり大幅な供給減はないと思われる。しかし一方で需要は徐々に高まっていくことが考えられ、更に在庫が減少していく可能性もある。以上のことから、米国産乳糖相場については、大幅な上昇は考えにくい、緩やかに上昇していくことが予測される。

**- 米国からの乳糖輸出量(2018年1月) -**

1. 中国	6,545	トン
2. メキシコ	4,515	トン
3. 日本	3,469	トン
4. インドネシア	2,109	トン
5. ニュージーランド	2,063	トン
6. インド	1,850	トン
7. 韓国	1,190	トン
輸出量総計	30,739	トン

**- 米国の乳糖生産量と在庫量(2018年1月) -**

乳糖生産量	42,683トン	前年比 1.5%増
月末在庫	58,649トン	前年比 16.7%増

<柴崎>

**<国内情報>**

**- 生乳減産傾向続く 都府県の生産強化が今後の鍵 -**

**- 生乳生産 -**

農林水産省が発表した2018年2月の全国生乳生産量は56万9,067トン。前年同月比0.5%増となり4ヶ月連続で前年を上回った。地域別では北海道が30万5,963トンで前年同月比3.0%の増加である一方、都府県は26万3,104トンで同比2.3%の減少となっている。

2017年4月から2018年2月までの全国生乳生産量の累計は665万1,539トンとなっている。前年度の生乳生産量である734万5,954トンを上回るには、3月の生乳生産量が前年比9.4%増となる必要があるが現実的に難しく、今年度の生乳生産量は前年割れする可能性が非常に高い。

今後夏の暑さで生乳生産が落ち込んだり、飲用牛乳の消費が伸びたりすれば、原料乳不足が深刻化する可能性もあろう。北海道は生乳生産前年並みを維持しているが、都府県の生乳生産量は減少しており、今後は都府県の生産基盤の維持、強化することが急務となっている。

**- バター -**

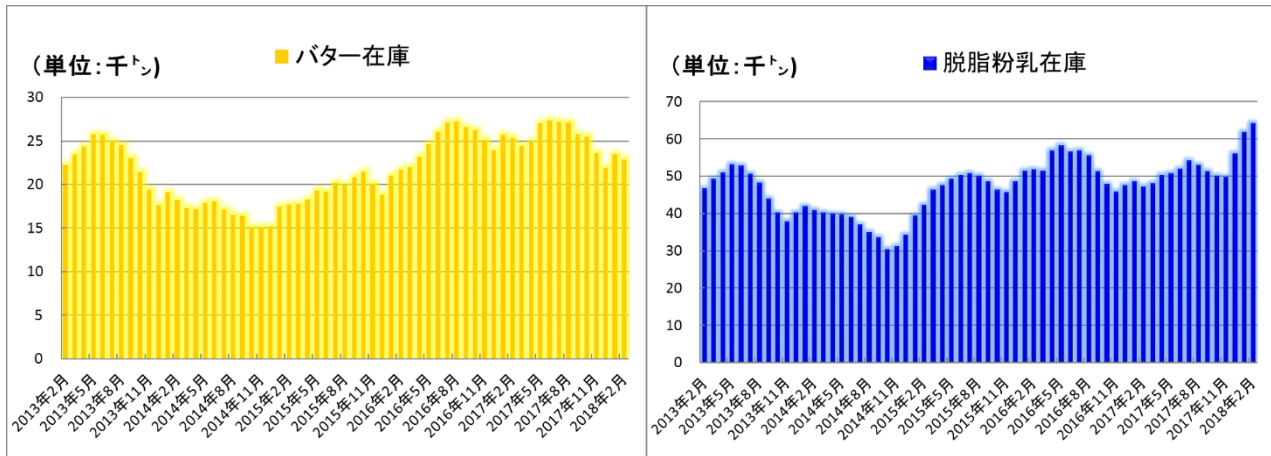
農林水産省が発表した2018年2月のバター生産量は5,029トンで前年同月比3.0%増、在庫量は2万2,926トンで同比9.6%減となった。

農畜産業振興機構の発表によると、国内乳業メーカーなど13社における2018年1月末のバター在庫は2万2,702トンで、前年比8.6%減となった。同月末の在庫量としては、過去5年間で2番目に多いものとなった。農畜産業振興機構による定期的な入札開催で見通しが立てやすくなっている。

**- 脱脂粉乳 -**

農林水産省が発表した2018年2月の脱脂粉乳生産量は、9,667トンで前年同月比2.6%増、在庫量は64,282トンで同比36.0%もの大幅増となった。

農畜産業振興機構の需給予測によると、脱脂粉乳の在庫量は4月にかけても増加傾向で推移し、4月末時点では過去5年平均を30%以上上回る6万7,000トンに到達すると予測している。



生乳生産量(2018(平成30)年2月)(単位:千トン)

	生乳生産量	牛乳等向け		乳製品向け	その他
			内業務用		
平成29年度	569	303	26	261	4.0
前年比	100.5%	99.2%	110.9%	102.0%	97.0%

2017(平成29)年度、バター需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	16,762	91.4%	15,614	99.2%	27,329	104.5%	4.6
第2四半期	12,598	87.6%	15,365	110.3%	27,062	101.7%	4.6
第3四半期	13,454	97.0%	27,170	110.5%	21,946	91.9%	3.7
第4四半期	17,243	101.5%	18,911	115.3%	25,478	104.1%	4.3
合計	60,057	94.5%	77,060	109.1%	25,478	104.1%	4.3

在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

2017(平成29)年度、脱脂粉乳需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	32,644	97.2%	36,643	110.1%	53,700	94.6%	4.3
第2四半期	25,272	92.9%	35,887	97.2%	53,085	103.3%	4.3
第3四半期	30,261	101.5%	30,757	86.6%	56,089	117.7%	4.5
第4四半期	33,933	103.2%	45,906	129.9%	50,116	104.0%	4.3
合計	122,110	98.9%	149,193	105.7%	50,116	104.0%	4.3

在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

<帆秋>



## <主要生産国の現行乳価>

	円換算乳価※1	適用期間	直近の乳価
日本	¥97.18/㍓	2018年1月	¥94.26/kg※2
ドイツ	¥49.65/㍓	2018年1月	EUR36.76/100kg
オランダ	¥50.65/㍓	2018年1月	EUR37.50/100kg
アイルランド	¥54.82/㍓	2017年12月	EUR40.59/100kg
米国	¥38.79/㍓	2018年1月	USD16.10/100ポンド (100ポンド=45.3592kg)
豪州	¥35.51/㍓	2017/18年度	AUD5.60/kg MS(乳固形kgあたり)
NZ	¥38.11/㍓	2017/18年度	NZD6.40/kg MS(乳固形kgあたり)

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

※3 為替レート EUR=¥131.00 USD=¥106.00 AUD=¥82.00 NZD=¥77.00

<出典> 日本:農畜産業振興機構 EU:European Commission 米国:CLAL 豪州:Murray Goulburn HP NZ:Fonterra HP

## <オセアニア情報>

### - MG社買収完了に向け Saputo社 Koroito工場を売却 -

Saputo社のMG社資産買収に関してACCC(豪州公正取引委員会)の調査が行われているが、ACCCは3月28日付けで調査結果の発表を4月4日に延期する事を発表した。VIC州西部にあるMG社Koroit工場と既にSaputo社100%子会社であるWCB社Allansford工場の2工場の取り扱い生乳量は、VIC州南西部及びSA州の南東部のエリアにおいて75%に上る。それ以外ではFonterra社唯一の主要乳業会社となる為、同エリアの集乳競争が激減し酪農家に支払われる乳価が低下していく事をACCCは懸念している。3月16日Saputo社はACCCに対してMG社資産買収が成立した場合はKoroit工場を手放すことを約束したと発表した。またKoroit工場の売却先はACCCの承認なく決定しない事をACCCに確約している。ACCCが調査結果を4月4日まで延期した背景には、買収完了後にSaputo社がKoroit工場を売却することについて、酪農業界の反応を確認する為に審議期間を1週間延長したと思われる。ACCCの承認を得た後に、4月5日にMG社臨時株主総会を開催し、株主酪農家の最終投票を実施する予定。ここで50%以上の株主酪農家の賛同が得られれば5月1日にMG社はSaputo社傘下になる事が正式に発表される予定となっている。売却が完了すれば、売却額13億1,000万豪ドル(約1,074億2,000万円)のうち三分の二は、一株(ユニット)約80セント(約66円)程度が株主酪農家に割り当てられる。その他、負債、売却手続き、訴訟費用などが確定した後、売却残金に余剰があれば、別途追加支給されることになっている。

Koroit工場はドライヤー4基(フォローアップミルク、ホエイ粉、SMP、BMP製造)、バター、AMFの製造設備を保有するMG社再審で最大工場の一つ。集乳量のキャパとしては最大100万トンを超える工場である。同工場に興味を示している企業は多数に上ると予想され、現在の候補としてはBega社、ACM社、Burra社、Parmalat社、中国系Yili社などの名前が噂されており、MG社資産買収に手を挙げていた企業は興味を示している可能性は高いと思われる。Fonterra社に関しては、VIC州西部にDennington工場、Cobden工場を所有しており、ACCCが指摘している独占禁止の観点から可能性はない。MG社の集乳量が激減している中、現在Koroit工場の稼働率は30%程度と言われている。どこの企業がKoroit工場を買収するにしても工場の稼働率を上げる為に集乳量を50~70万トンレベルで大幅に増加させる必要がある。一方でSaputo社はMG社の立て直しを行う上で

全 7 工場全体の集乳量を上げる必要があり、Koroit 工場の売却先に関しては同社の集乳確保の思惑も影響してくると思われる。今後の豪州酪農業界に与える影響は少なくない為、引き続き Koroit 工場の売却先については注目が集まる。

#### Bega 社 2018/19 年度の乳価を通知

3 月 23 日、Bega 社は現行乳価(AUD5.63/kg 乳固形、約 462 円/kg)を新年度の第一四半期(2018 年 7 月～9 月末)まで支払う事を供給酪農家へ通知した。10 月以降の乳価に関しては 9 月までに発表するとしている。また同社はサプライヤーが 3 年間の生乳供給契約に合意した場合は、AUD0.50/kg(約 41 円)乳固形、2 年契約の場合は AUD0.25/kg(約 21 円)乳固形の一時金を支払うというオファーもしている。現状の酪農家には魅力的であり、新しい酪農家を獲得する上でも積極的な提案となっている。ラボバンクは新年度の乳価を AUD5.45/kg(約 447 円)乳固形と予想しており、その他酪農アナリストも乳価が下がるとの見方を示していた中で、新シーズンの乳価が早期に提示されたことについて酪農家は非常に歓迎しており、この乳価が競合他社の基準となってくるとと思われる。以前は MG 社が必ず最初に新年度乳価を提示して業界をリードしてきたが、現在は Bega 社が先だって積極的な乳価提示を行っており、豪州酪農業界での同社の存在感が大きくなっている事を感じる。その他乳業会社も集乳量を確保する必要があり、強気な乳価提示を行ってくると予想される。

(AUD=¥82.00 にて換算)

#### — 豪州生乳生産量 —

単位:百万リットル

	2018 年 2 月の生乳生産量(前年同月比)	2017 年 7 月～累計 (前年同時期比)
NSW	75.4 (-5.5%)	779.8 (+0.3%)
Victoria	390.9 (+4.3%)	4,359.1 (+4.0%)
Queensland	25.6 (-14.9%)	272.2 (-6.0%)
South Australia	39.7 (+10.0%)	360.8 (+8.3%)
Western Australia	28.7 (+8.3%)	259.5 (+0.7%)
Tasmania	70.2 (+3.1%)	630.6 (+6.0%)
<b>Australia</b>	<b>630.5 (+2.4%)</b>	<b>6,662.0 (+3.4%)</b>

#### — ビクトリア州の地域別生乳生産量 —

単位:百万リットル

	2018 年 2 月の生乳生産量(前年同月比)	2017 年 7 月～累計 (前年同時期比)
東 部	144.1 (+6.0%)	1,509.6 (+4.2%)
北 部	127.5 (+10.2%)	1,330.5 (+8.6%)
西 部	119.3 (-3.2%)	1,518.9 (+0.2%)
<b>ビクトリア州全体</b>	<b>390.9 (+4.3%)</b>	<b>4,359.1 (+4.0%)</b>

<メルボルン駐在 Lacto Oceania Pty Ltd 松本>

## <米国駐在員情報>

### - 1月の米国産乳製品輸出量 -

2018年1月の米国産乳製品の輸出は総じて好調であった。脱脂粉乳(NDM)の輸出量は1月単月の数字としては過去最高となる4万9,668トンで前年同月比3.9%増となった。前月比では18%減となったが、これは前月の輸出量が過去最高水準であった事による反動と言える。最大輸出先であるメキシコ向けも好調で前年同月比7.6%増となった。

他の乳製品の1月の輸出量も、2017年後半ほどの勢いは無いが、概ね前年同月比二桁増となっている。ホエイ製品に関しても、1月単月の数字としては過去最高を記録し、WPCの輸出量は前年同月比15.7%増となり、過去2番目に多い数量となった。ホエイパウダーの輸出も前年同月比29.8%増と好調で、やや供給過剰気味となっている国内在庫解消に寄与している。

チーズとバターに関しては、前者が前年同月比18.9%増なのに対し、後者は24.6%増と大きく増えている。唯一、輸出数量を減らしているのがクリームで、1月の輸出量は約399トンに留まり、前年同月比76.3%減となっている。要因としてはメキシコ向けが大きく減少しているのに加え、カナダ向けも前年同月比88.3%減と大きく減少している事が大きい。

カナダにおける生乳生産割当量の拡大とクラス7乳価の導入は乳脂肪ならびに乳固形に関する国際取引の枠組みに関しての見直しを迫っているとも言える。2017年のカナダ産脱脂粉乳(SMP)の輸出量は約3倍に増加した一方でバターの輸入量は27%減、クリームの輸入量も45%減となっている。

### - CWTの輸出促進プログラムを通じての米国産チーズとバターの輸出 -

2017年、CWT(Cooperatives Working Together)はチーズならびにバターに関する503件の輸出申請を受理し、その結果として33,300トンのチーズ(前年比46%増)と2,680トンのバター(前年比51%減)が輸出された。

2018年2月には21件の輸出申請がDarigold、DFA、Maryland & Virginiaといった酪農協同組合系メーカーに対して認められ、1,900トンのチーズ、390トンのバターが5月末までに船積みされる予定である。2018年累計では、2月末の時点で計11カ国向けに、6,304トンのチーズと721トンのバターの輸出申請がCWTによって受理されている。

### - 2月の主要23州生乳生産量 -

米国農務省(USDA)の発表によると2月の主要23州の生乳生産量は721万8,600トンで前年同月比1.8%増となった。先月発表の1月の生乳生産量は前年同月比1.8%増の785万4,200トンに修正された。

主要23州における2月の一頭当たりの平均搾乳量は約827キロで前年同月を約10キロ上回った。

主要23州における2月の平均乳牛頭数は875万頭と発表され、前年同月比49千頭増、前月比1千頭増となった。

### - 2018年2月主要州別生乳生産量(前年同月比) -

カリフォルニア州	1,467,782トン	+3.5%	(+49,486トン)
ウィスコンシン州	1,059,182トン	+0.1%	(+1,362トン)
ニューヨーク州	512,112トン	-2.3%	(-12,258トン)
アイダホ州	510,750トン	+4.8%	(+23,608トン)
テキサス州	444,466トン	+5.5%	(+23,154トン)
ミシガン州	395,434トン	+0.9%	(+3,632トン)
ペンシルバニア州	390,894トン	+0.3%	(+1,362トン)
ミネソタ州	345,040トン	-0.5%	(-1,816トン)
ニューメキシコ州	298,732トン	+3.3%	(+9,534トン)
ワシントン州	231,994トン	+3.9%	(+8,626トン)

**- 2018年1月米国産主要乳製品生産量 -**

バター	83,990トン	前年同月比 +4.3%	前月比 +9.0%
チーズ	490,320トン	前年同月比 +3.4%	前月比 -1.0%
（うちアメリカンタイプチーズ）	194,766トン	前年同月比 +2.7%	前月比 -1.0%
（うちイタリアンタイプチーズ）	213,380トン	前年同月比 +3.4%	前月比 +0.5%
NFDM(食用)	73,548トン	前年同月比 +5.4%	前月比 -1.2%
SMP	20,793トン	前年同月比 -17.2%	前月比 -8.3%
ホエイパウダー	40,542トン	前年同月比 +8.5%	前月比 +7.0%
WPC	20,112トン	前年同月比 +10.4%	前月比 +3.9%
乳糖(食用、餌用)	42,721トン	前年同月比 +1.5%	前月比 -2.9%

**- 2018年1月末米国産主要乳製品在庫量 -**

バター	101,639トン	前年同月比 +1.0%	前月比 +33.0%
チーズ	578,940トン	前年同月比 +7.0%	前月比 +/-0%
（うちアメリカンタイプチーズ）	335,149トン	前年同月比 +2.0%	前月比 -1.0%
NFDM(食用)	154,449トン	前年同月比 +50.0%	前月比 +6.3%
ホエイパウダー	39,567トン	前年同月比 +28.6%	前月比 -12.1%
WPC	38,580トン	前年同月比 +42.4%	前月比 +0.5%
乳糖(食用、餌用)	58,692トン	前年同月比 +16.7%	前月比 -4.4%

**- 2018年2月末バター、チーズ在庫量 -**

バター	125,751トン	前年同月比 +3%	前月比 +22%
チーズ	596,631トン	前年同月比 +7%	前月比 +3%
（うちアメリカンタイプチーズ）	346,287トン	前年同月比 +2%	前月比 +3%

＜ロサンゼルス駐在 Lacto USA Inc. 佐藤＞

お問い合わせ先:  
株式会社ラクト・ジャパン  
webmaster@lacto-japan.com

出典:  
AGRA EUROPE 各誌  
Dairy Dairy Report  
Dairy Industry Newsletter  
農畜産業振興機構“畜産の情報”  
AMS Dairy Market News  
日刊酪農乳業速報  
Rice Dairy  
NZ Herald  
Stuff.co.nz  
食品産業網  
Weeklytimes  
USDEC Export Trade Data  
Global Trade Information Service  
USDA's Dairy Market News  
Australian Financial Review  
食品産業サイト  
経済日報  
東方ネット  
長三角乳業

ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。